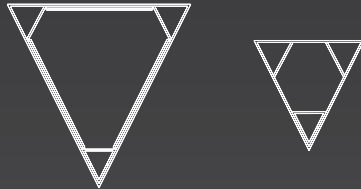


# △ ~ Delta ~

## ■ 設計趣旨

この橋は秋田にある八郎湖に架けることをイメージして製作した。  
 八郎湖は昭和 32 年に干拓され、今では湖の中心に八郎瀨という干拓地が存在する。  
 その周りをぐるりと一周囲んでいるのが今の八郎瀨の姿である。  
 その独特な地形から、水辺の風景は河川に似ており、私たちは今回その湖に架かる干拓地に繋がる橋をイメージした。  
 八郎瀨は干拓地であることと農業が盛んなため、ほとんど平地で高い建物もあまりない。  
 跳ね上げたときの橋はタワーのようなシルエットで、広々とした風景の中で水辺のランドマークとしても機能するだろう。

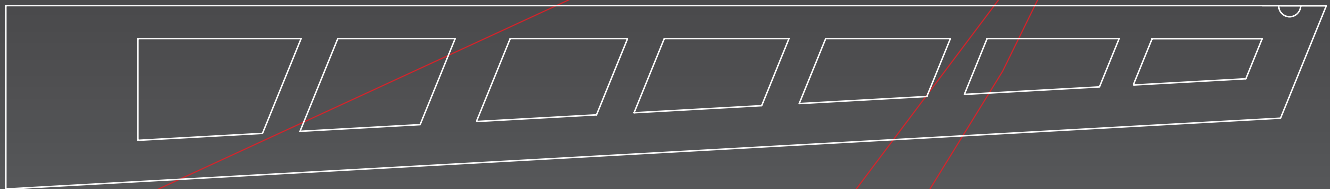
## ■ 断面図 Scale:1 / 2



## ■ 断面図

1. 質量を減らすために、形状は逆三角形。
2. 強度を増すために、角に三角形の小断面をつくる。
3. 根元が千切れないように、紙を重ねて厚さを厚くする。

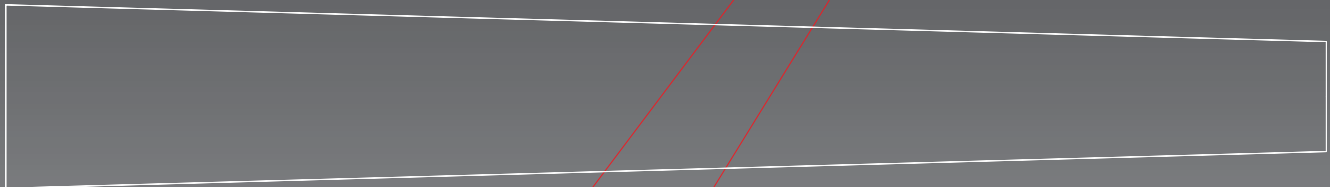
## ■ 立面図 Scale:1 / 2



## ■ 立面図

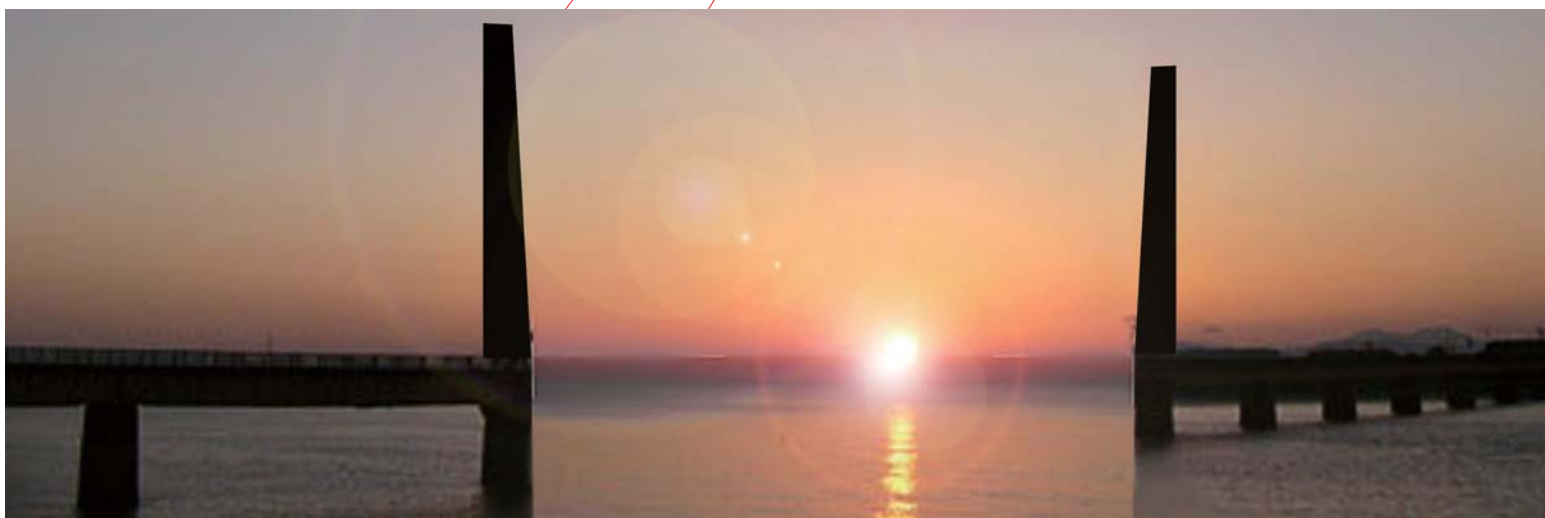
1. 質量を減らすために中を抜く。
2. 質量を減らすために先端に行くにつれ細くなる。
3. 70° の傾斜がついた時に強度が出るように、切り込みの角度を 20° にする。
4. 紙の接合部のつなぎ目に紙を重ねる。

## ■ 平面図 Scale:1 / 2

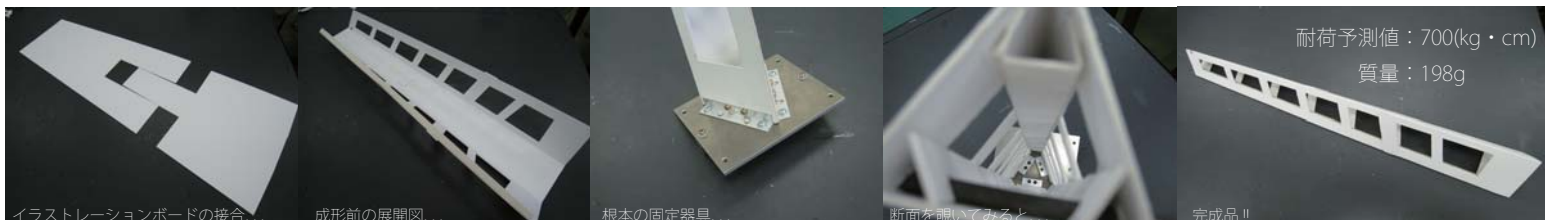


## ■ 平面図

1. 質量を減らすために先端に行くにつれ細くなる。



八郎湖に沈む夕日を背にそびえ立つ2つのシルエット... そのシルエットは時として形を変え、水平線と重なる1本のラインを描き対岸を繋ぐ橋となる...



イラストレーションボードの接合...

成形前の展開図...

根本の固定器具...

断面を覗いてみると...

完成品!!

耐荷予測値 : 700(kg · cm)  
 質量 : 198g